

謹賀新年



諸先輩、御父兄のみなさまには、よき新春をお迎えのことと拝察申し上げます。
さて、本年度の同志社大学ボート部は、“部員一丸となって挑戦していく”を motto に何ごとにも取りくんで前進していく覚悟であります。その決意の一端といたしまして活動報告及び諸先輩方との交信の場とすべくこの「力漕」を発行することとあいなりました。

諸先輩一同様には、どうぞ今後とも我々若輩者をよろしく御指導賜ります様お願い申し上げます。
同志社大学ボート部一同

部報発行に寄せて

ごあいさつ

同志社大学漕艇部部长 出石 邦保

このたび漕艇部部報「力漕」を発行する運びとなりました。日頃、艇友会並びにOBの皆様から物心両面にわたる多大のご指導とご支援を頂いて参りましたが、そのお礼を申し上げたり、部活動の現状を報告させていただく機会をうることができませんでした。

この部報によって、ささやかではありますがその目的の一部を果たすとともに、そのときどきに部が抱えている問題や現役部員の考え方を知っていただき、それについてのご教示等をいただく機会にしたいと考えています。

昨年四月以降、OBの方々から救命艇、シェルエイト、ダブルスカル、シングルスカルを各一艇ご寄贈いただきましたし、大学関係部課の援助をえて近畿地建によって新しい船台の建造とその搬入路の整地がおこなわれ合宿所の環境は見違えるほど整備されました。

部員一同、このように恵まれた環境の中で新井監督をはじめとするコーチの方々のご指導をえて一層有意義な合宿生活を送り、立派な成果を挙げてくれるものと思っています。伝統あるわが漕艇部は創部百周年を迎えようとしています。本年がそれを記念するにふさわしい年となるよう部員が一丸となって頑張ってくれることを期待しています。先輩各位のご厚情に感謝するとともに今後のご支援をお願いする次第です。

監督 新井 喜範

このたび部員諸君の熱意により念願の部報「力漕」が発刊されますことはまことに喜ばしいかぎりです。

その時々々のボート部の現状を活字にしてみることは部の再認識と反省のいい機会になるだろうし、又、新しい発見にもつながるだろう。

全日本という大きな目標に到達するには単に対校漕手の力量いかんというものではありません。部員一人一人が自分の持場をしっかりと固めかつ努力し続けること、ボート部全体の総合力を高めていくことです。

今回の発刊は全体のレベルアップをはかる為の、ひとつの有効なやり方だと思う。そしてなによりも諸君の

ボートに対する意気込みが感じられる。一つの目標を達するにはまずそれに取り組み強い姿勢が基本的に必要です。諸君のボートに賭ける熱い思いがこうした部報の発行という形になって現れてきたのだと思うが、現在のこの姿勢を大切に全員が結束して目標に向かって着実に前進することを望みます。

対校コーチ 坂本 雄二

ボート部へ入部する動機は様々だろうが、入部したならば、まずボートを好きになって欲しい。好きになればこそ、ハードな練習も、速くなるために楽しむことが出来る。もし義務なり責任だからと受取ると、4年間は苦しみの連続にすぎない。練習にしても好きで「やる」練習と、「やらされる」練習ではまったく意味が違う。「やらされる」練習では、何万本漕いでも速くはならない。多少速くなくても楽しくはないだろう。なぜなら、それはコーチが速くしたにすぎないからだ。私がコーチの任を受けた頃は、選手がしきりとスケジュールメニューを聞きに来たものだが、最近では、コーチが無能である事に気が付いたのか、自分達での得た練習が出来る様になってきた。「やらされる」練習から、「やる」練習への変化こそが低迷を脱出する唯一の方法である。その意味において、我が部は、遅い歩みながら、確実に一歩ずつ前進している事はまちがいない。

二軍コーチ 荻野 義明

新井監督のもと、二軍のコーチになって3年目を迎えました。いまさらのごとく学生スポーツの難しさ、ボートの難しさを感じています。

今、同大ボート部にとって必要なことを2つ感じています。

一つは、セレクション以外の優秀な部員をいかにして集めるかということです。毎年、同じ様なキャンパスの勧誘の他に付属高校へのアプローチを考える必要があるでしょう。

もう一つは、具体的な指導方法の改善です。昔、先輩から受けた方法と、自分の経験に頼った方法からもっと今の学生にあった、たまたもっと科学的な指導法をコーチ自身が身につけて、どんどん実施していくことです。仕事・家庭を抱えていく中で、ボートへの情熱がさめない限り、精一杯現役諸君の力になりたいと思います。

ASTY (S. スカル), ASTY II (D. スカル) に続き

WILD ROVER X OPTEX 進水す

去る11月17日(日)、現役部員20名、OB30名余が集い、ワイルドローバー10世OPTEX並びに、シェルフォア千鳥の進水式が行われた。

式はとどこおりなく進んだ。まず同志社大学学生課の鹿子木氏のOBへのご挨拶の後、大学宗教部主事の千葉氏による聖書朗読及び祈禱、次に我が部部長の出石教授の挨拶と続き、今回の10世OPTEXを寄贈された小林徹氏(株式会社OPTEX代表取締役、昭和45年卒)にお言葉を頂いた。小林氏は御自分の会社発展における御経験より、大志を抱くことの大切さを強調され、現役部員を一掲された。その後、再び千葉氏のもと、参加者全員で讃美歌を合唱し、同氏の祈禱を頂いた後、全員で肩を組み、カレッジソング、同志社チアードと続き、皆の歌声がこだまする中、式は終了した。



忘れていません このキャッチ

それから発艇。10世には小林氏を整調に当時のジュニアメンバー、千鳥にはその日長老の石本氏及び現役部員がのり込み、瀬田川を歓漕した。10世はなかなか走っていた。

その後、監督の御好意でバーベキューパーティーを行い、一同肉をパクつきながら、和気あいあいと話に花を咲かせた。

記念すべき進水式の当日、早朝には一時雨が激しく降り、パーティー中も小雨がばらついたものの、夕暮れ時には雨あがりのしっとりとした雰囲気の中、瀬田の山々や雲々を夕陽は赤や紫に染めつつ暮れた。将に絶景であった。物事最後が肝心だ。我が部の今後をそこに重ねたい。現役部員は一段と奮起しようではないか。今度こそボート部関係者の諸々のお力添えに応えようではないか。

現役部員は今

現在、同志社大学ボート部は、城主主将以下20名と数は少ないながらも、来たるべきボートシーズンに向け、活気ある活動を続けております。

昨年9月末からの3ヶ月間に渡る秋期合宿では、シーズン中ではできない、各個人のローイング技術向上の練習に努め、SF、舵無しペア、SS等の小艇をフルに活用し、エイトの艇速に対応できる技術習得に、部全体で取り組みました。

さらに新しい試みとして、昨年度全日本優勝の東レ滋賀クルーとエルゴメーターによる、合同練習を行ないました。それにより、漕手一人一人が、潜力的客観的教値を認識し、その後の水上及び陸上トレーニングでは、その結果を積極的に利用しております。

また、11月22日より1ヶ月間、部の活動資金の一助にと、部員全員が大津の西武百貨店でアルバイトを行いました。部員数の減少のため、前年度より日程的に条件が厳しかったのですが、折しも御歳暮商戦たけなわの百貨店では、貴重な戦力として働けたものと思います。(4面に掲載)

1月、2月は大学の試験期間のため、御所及び、大学従規館での陸上トレーニングが主となりますが、基礎体力を向上させ、シーズンへの土台にしたいと思っております。

ここ数年低迷が続いている我が部ではありますが、昨年の関西選手権三位をはじめ、復調の基盤は、少しずつながらも整ってきたように思います。今年度は昨年度からのさらなる発展を期し、また新艇の御寄付にお応えすべく、城主主将以下一致団結して臨んでおります。

どうぞ、今シーズンのボート部に御期待下さい。

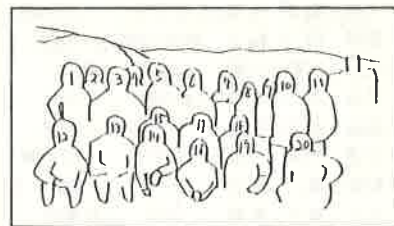
85年度試合結果報告

- 朝日レガッタ 5月3~5日 於 琵琶湖
- 同志社艇友会 決勝進出 6位(1位東レ)
- 同志社大学 準決勝敗退
- 瀬田川リーグ(Jrのみ) 6月29日 於 琵琶湖
- 二戦(京大、滋賀経)二勝 1位
- 関西同立戦 5面に詳細を掲載
- 関西選手権 7月28,29日 於 琵琶湖
- 同志社大学 3位(1位滋賀経 2位東レ)
- 同志社艇友会 準決勝敗退
- 瀬田川杯SF 同志社大学 3位
- 全日本大学選手権 8月22~25日 於 戸田
- 同志社大学 準決勝敗退(1位中大)
- オックスフォード盾レガッタ
- 同志社大学 予選敗復敗退(1位早大)



現役部員紹介

凡例



名前

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 1. 森川 | 8. 屋久 | 15. 末瀬 |
| 2. 平松 | 9. 石田 | 16. 奥谷 |
| 3. 藤田 | 10. 樋口 | 17. 井上 |
| 4. 佐藤 | 11. 原 | 18. 阿江 |
| 5. 星沢 | 12. 後藤 | 19. 関谷 |
| 6. 斉藤 | 13. 高橋 | 20. 安田 |
| 7. 城生 | 14. 大沼 | 以上20名 |



三回生

- 主将 城生 栄二 文学部社会学専攻 熊本商大付属
なるべくしてなった主将、試行錯誤を経ながらも「6分を切るクルー」作りに一生懸命、「精進」がモットーです。
- 主務 奥谷 勇人 経済学部 甲府西
「勝つ為には」を常に追求して止まない熱血マネージャー。責任感の強さも人一倍。
- 副将 高橋 良明 商学部 桃山学院
高橋副将は男っぽさと親分肌で売ります。主将の片腕として後輩の信頼も絶大。
- 会計 樋口健一郎 商学部 高槻
「合宿費徴収率」の高さは歴代会計の中でも群を抜く、しかし其の心労は頭髪に…!?
- 学連 安田 一郎 工学部機械工学科 三島
気合い十分のマネージャー。工学部との両立の他、あらゆる方面に興味を向けるマルチ人間。
- 寮長 後藤 嘉樹 商学部 米子東
「無頼派」の自認も「照れ屋」の裏返し、寮長として“意外”に神経の細かい所を発揮。
- 森川 博有 文学部国文学専攻 美方
戦歴は文句なしのNo.1、「未完の神器」も癒々完成の域に近づき今年は大飛躍の年に。
- 大沼 弘幸 法学部法律学科 札幌北
札幌北高出身の秀才、チームの大食漢。経験の少なさは「やる気」でカバー。
- 屋久 浩典 法学部法律学科 川内
高校時代からのキャリアを誇る屋久さんは今や押しも押されぬ対校の舵手。尚、お馬好きは◎とのこと。
- 藤田 哲哉 経済学部 膳所
ボートへの想い断ち難く3年より入部、朗らかな人柄でJr.を引っ張る、大の吉本好き。

二回生

- 原 一雅 経済学部 洲本
ペンペンパワーという正体不明の怪パワーの持ち主。そのパワーでパドルを漕ぎまくる。
- 佐藤 亘 商学部 岡谷南
インターハイのシングルスカル準優勝という実力者。大学ではエイトで優勝か?
- 斉藤 繁明 法学部法律学科 長岡大手
少々の事では全く動じず大胆不敵。しかしながら複雑怪奇なる所あり。
- 阿江 克彦 文学部哲・倫専攻 小野
小さい体ではあるが中にひめたるパワーはなかなかのもの。Jr.一のバカ力。
- 平松 靖之 文学部教育学専攻 膳所
ボート部きってのトラキチ。昨年は阪神日本一。今年こそは同志社日本一をと闘志を燃す。
- 星 沢 慎二 文学部文化史専攻 清風
練習メニューのほとんどにおいて上位にランクされる。さてこの人に足りないものはなんだろう。

一回生

- 石田 政隆 工学部工業科学科 向陽
漕手の中では最も軽量ではあるが、そのハンデをガッツで補う根性男。
- 井上 周一 工学部機械工学科 白稷
最近ランニングにウェイトにとともに調子を上げている。ただ今発展途上中。
- 関谷 晴彦 工学部機械工学科 加納
朝のランニングでは常にトップクラスの俊足の持ち主。そしてなかなかの努力家。
- 末瀬 雅巳 商学部 小野
クラブコンバの主役はこいつ。合宿所でも先輩にかわいがられる事度々、兎に角かわいい奴なんです。

今春 卒業生紹介

前主将	中村俊裕	文学部	美方
〃主務	松原久能	法学部	名古屋西
〃副将	田中義力	経済学部	市尾崎
同上	川崎五代嗣	同上	膳所
〃寮長	谷川真司	法学部	春日丘
〃会計	安田克裕	工学部	彦根東
〃学連	田中 薫	法学部	大工大高
〃副務	高下康治	同上	戸畑
	磯田秀樹	同上	比叡山
	安田智雄	工学部	住吉
	今井崇雄	文学部	膳所
	今井 智	商学部	岡谷南

～卒業にあたって～

前主将 中村俊裕

部を引退して数カ月が過ぎますが、引退して、同志社大学ポート部において過した3年半余りというものが、いかに有意義であり、また青春の真ただ中をそこで過した私は、なんとという幸せ者であったかと痛感します。

在部中は、1日の生活、いや1年の生活のリズムが部中心であったのがイヤでたまりませんでした。普通の学生連中と同じように、アルバイトをして小遣いを稼ぎ自由きままな生活してみたいとよく思ったものでした。

しかし、今いゆるごく普通の生活をしてみますと、青春の大切な時間をポートに費して良かったと思っています。つらい練習を共に耐えた連中とは、別れても別れきれません。ポート部という存在は、私の気持ちの中で一生、生き続けます。友と過した3年半本当に良かったと思っています。この思いを胸にこれからも頑張っと思っています。

当世アルバイト事情(同志社大学ポート部編)

「アルバイト」これすなわち、「金もうけ」である。しかし、ポート部のそれとなると、一味違うのだ。つまり、規定の日数働いて得た益金は、今後の部活動資金として、部の予算に入れられるのだから。

初めてバイトをやる者もいれば、足かけ3年目のベテランまで、その労働力は様々である。昨年は、それまで食品売場だけの勤務であったのが、家具、日用品、書籍等、ポート部員の活躍(!?)の場は広がった。

ここに二人の体験談を掲載し、「当世アルバイト事情」を考察した次第です。

11月22日から1ヶ月間、西武百貨店でアルバイトとして、仕事に携わった。仕事の内容はというと、書類を書くような事務的なことは皆無。もっぱら、荷物運び等の力仕事メインであった。雇っている百貨店側としても、それがポート部員には適しているのだ。

時々、包装もやったりしたけれど、時間に余裕があればいいもの、お客さんが横で待ってたりすると、ついあせってしまい、かえって遅くなってしまふ。これでは百貨店を助けにきたのか、足を引っぱりにきたのかわからないというものだ。

さらに悪いことには、お客さんにあれこれ質問されても、ほとんど答えられず、右往左往したことも数知れず……。本当にこれでは百貨店に何しに来たのかと、つくづく考えさせられた。

力仕事とは言え、そこは日頃から鍛えてるポート部員のこと、肉体的疲労よりも、初めての仕事という精神的な疲労の方が大きく感じられた。

しかし、慣れというのは恐ろしいもので、バイト期間も終わろうとする頃に、自分も一人前の店員になったんだなあ、と錯覚に陥っていたのは、はたして私だけであろうか?



在庫調べも大事な仕事
藤田(左)、高橋

つわもの揃いの「配送センター」。女の娘がいっぱい、暖房の効いた百貨店内とは対照的に、ここは辛く厳しい男の世界。暗い倉庫の中で一心不乱に働く男達の目には、遠く地の果て夢の果てへ、今日も貫き輝く男の光。

「プーッ。プーッ。プーッ。」と、トラックがバックして来る。朝の練習に追い打ちをかける肉体的疲労に、彼らの目には不安を隠し切れない。「今度の商品は何だ?」「くうっ。最悪。調味料や。」味の素に日清、重いダンボールを手から手へ。彼らのその機敏な動きは、ポート部の将来そのものを表している。

今日も暗く寒い配送センターに、若き男の夢が繰り広げられているのだ。

力仕事は任せて下さい。阿江

「配送センター 佐藤 亘」



同志社総合優勝!!

第1回関関同立戦

関関同立戦は、今年初めて行われた定期戦である。昨年度までの、同立戦。関関戦を関関同立戦に拡大するにあたっては各大学のマネージャーの苦労は並々ならぬものがあったことは銘記しておかねばならない。

7月23日、天気晴朗なれども波高しといった日和の下、第1回関関同立戦が行われた。関西漕艇選手権を4日後に控えた試合とあって、この一戦にける各大学の意気込みは並々ならぬものがあった。

試合は、新人のナックルフォア、第三シェルフォア、ジュニアエイト、対校エイトの順で行われた。新人のナックルフォアには、同志社、関西大、関西学院大の3クルーが出艇した。我同志社は、前期テストの為、新人4人の内2人を欠き、代ってマネージャーが漕いだ。他大学の新人だけのクルーに比べ、同志社は歴戦のマネージャーが2人も乗っていたこともあって、試合前半大きくリードしたが、如何せんマネージャーは練習をしていないのでその体力不足がたり、後半関西学院大に抜かれ2位に終わった。

次に第三シェルフォアであるが、これには同志社、立

命館、関西学院大の3クルーが出艇した。同志社は、このレースでも試験の為整調を欠き、代ってトレーナーに乗ってもらったが日頃の実力を出し切れず、最初から関西学院大にリードを許し2位に終わった。

一方ジュニアエイトのレースには、4大学全て参加の下行われた。我同志社ジュニアエイトは、朝日レガッタに於いて決勝に進出するなど対校エイトにも勝るような実力を持っていたため他大学のジュニアエイトと比較しても群を抜く存在であった。そのためレース展開も、最初から断崖で飛び出し、終始リードを広げつつゴールインした。

対校エイトも、4大学全て参加して行われた。朝日レガッタで無念の涙を呑んだ同志社は、爾来、臥薪嘗胆、粉骨碎身の思いで再起を期して猛練習を行なったかいあって、レースではスタートより終始リードを奪い、他のクルーを全く寄せつけず見事1位でゴールインした。そして同志社大学は、新人ナックルフォア2位、第三シェルフォア2位、ジュニアエイト1位、対校エイト1位という成績を挙げ、見事総合優勝を果たした。

同志社艇友会A見事優勝!!

第20回京都レガッタ

さる10月6日、滋賀県立琵琶湖漕艇場において、第20回京都レガッタが開催された。15:00 発艇の第31レースでは、OBエイト決勝と、一般エイト決勝が同時に行われた。

OBエイト決勝には、1レーンより、同志社艇友会A、龍谷大藤紫会、同志社艇友会B、日吉ヶ丘高校OBの4艇が出漕し、一般エイト決勝には、高橋滋氏(S45年卒)をはじめ、同志社OBを中心とする大丸京都店が出漕した。

レースは、1レーンの同志社艇友会Aがスタートから飛び出し、500mまでに2位以下に1艇身以上もの大差をつけて、優位にレースを展開した。しかし、500mをすぎややバラが出てきた同志社艇友会Aは、昨夏引退した現4回生を中心とする同志社艇友会Bに追い上げられ、700m付近では逆にキャンパス1つ分リードされた。このまま同志社艇友会Bが逃げ切るかと思われたが、800m付近で思わぬ「腹切り」があり、同志社艇友会Aが再度トップに立った。同志社艇友会Aは、種目は違うものの大丸京都店に追い上げられたが逃げきり、1位でゴール、見事優勝を飾った。

同志社艇友会Aの屋久浩典舵手の話

「OBクルーの一員として優勝できてとてもうれしく思っています。僕自身、大学に入って初めてメダルを獲得でき、なおさら喜びも大きいものでした。今年もOBの皆様方の多数のご参加を願う次第です。」

第31レース

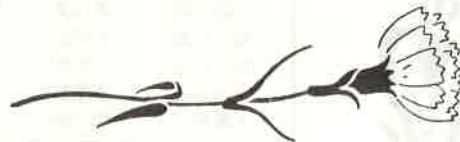
レーン	クルー	着順
I	同志社艇友会A	1位
II	龍谷大藤紫会	3
III	同志社艇友会B	2
IV	日吉ヶ丘高OB	4
V	大丸京都店	1位

同志社艇友会A 同志社艇友会B

C 屋久浩典(現3回生)	C 奥谷勇人(現3回生)
S 安田一郎(現3回生)	S 川崎五代嗣(現4回生)
7 永野 巖(S57年卒)	7 安田智雄(現4回生)
6 貝賀俊之(S58年卒)	6 田中義力(現4回生)
5 目片雅喜(S57年卒)	5 谷川真司(現4回生)
4 矢野英明(S60年卒)	4 田中 薫(現4回生)
3 小島康正(S48年卒)	3 安田克裕(現4回生)
2 荻野義明(S52年卒)	2 高下康治(現4回生)
B 坂本雄二(S51年卒)	B 作間秀樹(S59年卒)

(敬称略)

(敬称略)



石田政隆
工学部一回生

新人勧誘大作戦

～ その傾向と対策!? ～

関谷晴彦
工学部一回生

今、同志社大学ボート部は存亡の危機にさらされている。過激な表現ではあるが、これは、事実である。つまり昨年の新人が極めて少なかったことである。昨年の5月、御所トレーニングが始った時点で6人の入部者がいたのだが、うち2人が合宿入りを前に退部してしまった。

その後、数人が試乗会に訪れたが、1人の入部者もなかったのである。その当時、1回生には現時点のような危機感など全く考えもおよばなかったし、上回生においてもシーズン来とともに新人勧誘を考えるひまもなくなっていったようである。

夏のインカレが終わったとき、戸田に来られたOBの方の中には、新人の少なさに驚いておられた方もあり、部の急務として再び、新人勧誘問題がとりざたされるようになった。しかし主に時間的制約からキャンパス内での街頭勧誘は思うように運ばず、10月になってようやく1人が体験入部しただけであった。その1人も部員の熱心なアピールにもかかわらず2日間、合宿生活を送った後、入部する意志のないことを表明して合宿所を去った。11月に入って、工学部を除く全学部1回生への電話による勧誘が行われることになった。この方法には批判的な意見もあったが、試してみる価値あり、という訳で始められた。これもなかなかうまく行かず、大半の者が既になんらかの団体に所属していたり、本人が外出中で、つながらなかったりという状態である。

現時点で、電話勧誘によって1人も勧誘できていないが、しばらくの間、続ける方針である。

ところで勧誘を断られる第1の理由は、なんといても長期間の合宿生活があるという点である。又、「体育会系クラブはいやだ。」という声もある。それらは、時間的制約を受けたり、先輩、後輩という上下関係に縛られるのは御免だということである。たしかに今年の新人部員の中にもこれらの制約に苦痛を禁じ得ない者もいるのである。しかし、それらの制約の中で培われるもの、それらの苦痛に代って得られるものは、大きいはずである。そういった価値を明確にし、改めて、新人勧誘の柱にすえて、問題解決にとりくんで行かねばならないと思う。

御結婚
おめでとう
ございます

小関隆一氏	S55年卒
細見博氏	S56年卒
小森進治氏	S58年卒
松田弘一氏	S58年卒

1986年度試合日程

○朝日ガレット	5/3～5	琵琶湖
○軽量級選手権大会	6/20～22	戸田
○アジア選手権大会選考会	8/2～3	同上
○全日本大学選手権大会	8/21～24	同上
全日本選手権大会	同上	同上
オックスフォード盾レガッタ	同上	同上

但し関西選手権大会は12/10日現在未定

ボートのボの字も知らない私が合宿所によって来て、緑濃い石山寺、深緑な瀬田川の美しさに魅了されたあの忘れもしない4月20日の体験入部から8ヶ月が過ぎました。少々メンバーの変更もございましたが、4名という少人数で、新人戦、関東、戸田を精一杯がんばった。

人数が少ないということで先輩方に大変迷惑をお掛け致しましたが親切に面倒を見て頂きました。昨年初、新メンバーでJr.を組みましたが、マネージャーにコックスをお願いしているような深刻な状態です。身近な者にボート部をピーアールしたり、体験入部をしてもらったりしましたが今一步のところメンバーに加えられませんでした。

しかし、受験戦争を勝ち抜いてきたものの、自分のイメージした大学生活との相違に悩んだり、無力感を抱いている者、サークルに飽きた者等を捕えようと、上回生の方に手伝ってもらい無差別電話攻撃(とは言ってもある程度の絞って)に出た訳です。

まだ始めたばかりで女の子に電話をしてしまって、叱られて電話を切られたような失敗もございますが、この伝統あるボート部に一人でも多く集めようと一同がんばっています。

この新聞がOBの方々、御父兄の方々に届く頃には、新メンバーが加わり合宿所にもぎやかになっていることでしょう。

OBの皆様へお知らせ

1月2日琵琶湖にて初漕ぎ会、2月11日京都「鮎鶴」にて卒業生送別会が行われます。
多数の御参加をお待ちしております。

編集後記

『五里霧中』とはこのことだ。部報編集などまるでやったことのない自分が部報の記事を書いているのだ。しかし、伝統ある同志社大学ボート部と同様、これから未永く続く部報発行の礎となれば、自分にとっても誠に光栄なことといえる。

部報力漕

1986年1月1日発行

発行 同志社大学ボート部
大津市瀬田3-2-30

編集委員

高橋良明	奥谷勇人
屋久浩典	大沼弘幸
阿江克彦	平松靖之
石田政隆	斉藤繁明
末瀬雅巳	関谷晴彦

